

增補  
入

小思必用記

四



小兒心用養育月草卷四

目錄

- ① 中花我國共とくに痘疹いんしん初はじめて流はりまるはじり
- ② 痘疹いんしんの病やまひは神明しんめいあるの候とき
- ③ 痘疹いんしん乃は病やまひの候とき
- ④ 痘疹いんしん乃は病人びやうじん居あらなくしていやうの候とき
- ⑤ 痘疹いんしんは禁いん物ぶつ乃は候とき
- ⑥ 痘疹いんしん乃は病やまひは禁いん物ぶつ乃は候とき

- ⑦ 痘疹始終の日数乃说
- ⑧ 痘疹乃序病と云ふの说 付る 紅紙燭丸事
- ⑨ 痘疹始く出候所の善悪の说
- ⑩ 痘疹の形色れ善悪の说
- ⑪ 痘疹生死と決むる日期の说
- ⑫ 痘疹發熱の時善悪の说
- ⑬ 痘疹放標れ時善悪の说
- ⑭ 痘疹起腫の時善悪の说
- ⑮ 痘疹貫膿の時善悪の说

小兒必用書卷四

牛山翁

香月啓益

集

① 中花我國昔は痘疹初りて流行するに候  
 ○痘疹心乍と云ふは痘疹は東漢の建武年中は  
 南陽と云ふ所と云ふは唐の貞觀年中は  
 佛く中花子流布する所は唐の高祖の時永徽年中は  
 本州獨目乃流る唐乃高祖の時永徽年中は  
 痘疹西域より中國に傳へる所と云ふは  
 痘疹の始りては黄帝扁鵲の書に  
 痘疹とのせむるは漢の末唐の初りてあり候

エ下よ町のやのびる

一は瘧疾日本に於てハ聖武天皇乃御宇に染はる人無凡は船とるこれ船に居る其船中ハ人ハ雨り然くありて諸國ハあはれく後世に台一と續右事後やつし書よるるの以て病の瘧疾とよる事と云うが故にハ大后云病を貴人達と云い病は身失れりや本邦乃西使よのせり

二瘧疾乃病子神明ある乃況

朝録乃人南秋四があつた雨乃鬼神論ハ瘧疾の病一交わるとく好男と好女とて之を相ふ事にして

或人ありてせ乃後況ハ瘧疾ハ神ハ聰明無慾乃神カクといふ交りる事ありと傳ハ鬼神ありや也秋はづいといふれするら神のよあはれ也とドクする時らるは穢れる血汁と飲事ありと腹内ハわくまをく可い乃夜風乃温熱のま外よりしをいぬまを臍腑ハわくまを雨乃穢れ日よりお無しとい病を致さるの血汁と飲事二交せびそのれハ其病も二交容らる事なりとんを鬼神乃遣りしや喉なる証ハ茶を用はる茶はと逆ちる病ハ茶を用ひ茶餅とるはハその備証也よはまじらる今れ世の人ハ病ハ鬼神乃病と云

業と施と申るく居るがう花をすの如く云ふし  
 られ居る申るをうとまへて云ふれば他國も瘧の  
 神といふ申と云ふるよまづ日中乃風俗をうけ  
 神の如く申と云ふ國をまて家瘧と云ふ者あるは  
 神乃棚と云ふ新にうけし所は信也と云ふる人々  
 申るに外より申るに病者も害と云ふ申  
 するに申るは申るも國乃風俗よと云ふる  
 ○今時乃神道者ハ瘧瘡乃神ハ信者大の神と云ふ  
 べしと云ふ信者乃神ハ三韓三韓ハ新羅百濟高麗降伏乃  
 神乃瘧ハ邪羅乃云ふるまはる病を信は神と云  
 ふく病魔乃神と云ふ勝へき申るは神好事乃

者れ後ちりよ

三 瘧瘡乃病れ後

○瘧瘡乃病れ後 瘧瘡乃病ハ胎毒と時行乃瘧邪  
 とれ後ちりよと云ふ二つの者れ申すありけりこれ  
 ハ父母乃胎内にある時行火乃熱毒をけけしけれ  
 ばと云ふものぞの瘧瘡を瘧瘡と云ふけしけれ  
 の也よわると云ふれと胎毒といふ瘧瘡は天地乃五運  
 之氣乃瘧瘡ありく瘧瘡乃邪熱れを瘧瘡とい  
 ふの胎毒乃氣と云ふありく瘧瘡乃熱毒外の邪氣を  
 瘧瘡といふ病と云ふるをけしけれと云ふる瘧瘡  
 と云ふ瘧瘡乃病れ後ちりよと云ふる瘧瘡乃病れ後ちりよ



○出家比丘尼稱百山伏現乃其此人よるる事なれ  
紗袴をよるる事あつた病者よるる事一こを  
べきなり

○生人往來といひてはこれ別ぬ人の往來よりよ  
かり親し一別ごとくかぬ人ありとらふらふ事又  
て夜よされ子の別親をの婦人ともりやとあつたこ  
つらうらうらなればよる事

○孝服乃人とりむと親乃服忌あるんばつらふ事  
○月水ある女とりむつらふ事不浄なればなり  
○酒は酔くその息酒氣ありてくさき人  
○葱韭乃親乃臭と物とりむらふ人いふ事や五辛の

類を向よる事なれ 此等よる葱乃其の臭さといふ類  
の類と

○瘞毒とがよくよめかよも腫れよそ膿血と云ひ  
類の人

○いりのりありあつたく呼吸は海より人  
○腋氣あり人よる事又狐臭とよ

○息乃くさき人あつたく男物あつてくさき人  
○遠路よりあつたかきくさき人

汗くさき人  
○房中と形より人  
○穢黄乃臭

○唐府香於腦子の介香臭くけ者乃歎  
○油あげらる臭

○あやぎのうら髪毛とや臭

○蠟燭紙燭ちど次消る方臭あつてくその一同は蠟

燭よりいへうの紙燭とて蚊とやなうる

○魚子とをき又い者臭といわゆるいりく魚の  
骨やく臭

○溝とらく圓と掃除りて糞乃けられ方臭

○病者よ射くく擲けらるべうる

○病者よ射くく瘡をわわべうる

○病者よ射くく瘡をわわべうる

○病者乃居間并よ庭と掃除らる申るれ

○病者乃居間并よ庭と掃除らる申るれ

○六瘡瘡乃病よ掃除らる食地乃況

○一切を掃らる魚類

○豆腐

○酒

○鰻頭

○南蛮茶子

○切らる梅地の類

○油あげらる類

○饅頭と魚

八〇五〇〇〇〇〇〇

○茶

○餅

○麩類

○客錫が掃らる類

○柿栗香梅地を掃梅地の類

○肉食の類

○草乃類

○臭さ熱乃中葉 ○瘧疾西風乃熱  
○下く乃含抱て又物乃醫師よきまづひと  
ひく含せしむるなり

七 痘瘡始終乃日敷れ候

○熱煎くく二日わし和倍れとよりといひ又ハ序  
病といふなり

○放標とくく二日わし和倍れとよりいひ

○起脹とくく二日わし和倍れとよりいひ

○貫膿とくく二日わし和倍れとよりいひ

○收膿とくく二日わし和倍れとよりいひ

わくれとくく二日わし和倍れとよりいひ

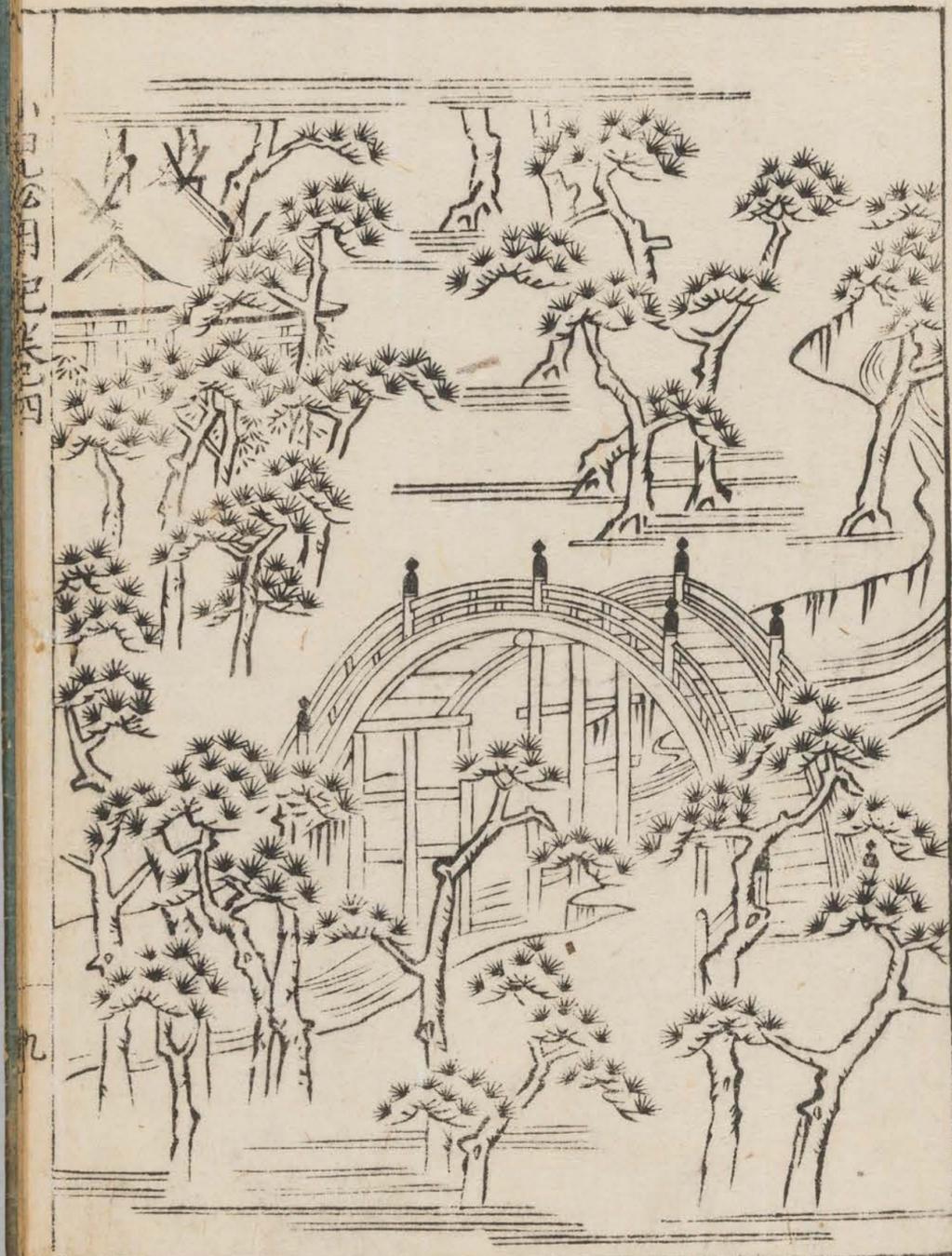
乃ゆて落くをると順症といひく葉と散りよも  
及び又又よりも物さ症いそる十日も  
るもわしと逆らる症ハ何しと敷らる事  
餘ケ目二日わしとわしと密もわし或ハ  
るよあるわしとわしと痘瘡心常博愛心  
痘疹全去等々詳なり

八 痘瘡乃序病とある乃候

○痘瘡乃序病とある乃候 紅板燭の事  
ふものこらるる事とる事とる事とる事  
為とわしと一ぬる事とる事とる事とる事  
たよ親身とる事とる事とる事とる事

冷らるる瘡瘡の病と云ふべしと保嬰海より云ふ  
 ○瘡瘡序病乃時より皮膚のうらみ其病きざり  
 るりしれと云目の光をみるくみり中を病者の  
 居ると云くくく孤燭と云りくくその光をくく  
 一くくはれど皮膚のうらみゆくくく瘡の病  
 心の中物たるその孤燭乃中ハ字書乃亦孤燭  
 唐帝のまゝと云くくく小指乃大さけく瘡の病  
 よひぬ一火のよと云と云わてくくく一くくゆれ  
 落ぬてくくくくく一と保嬰海より云ふ  
 本邦中もゆくくくくく中をくくく燭燭  
 くく孤燭は蒸脂と云りくくくゆゆゆゆ

有り赤きハ陽乃色より瘡瘡乃好きなるゆ  
 するゆべしその上孤燭は光をみるくく燭  
 ○九瘡瘡初く出る雨乃其患乃後  
 ○瘡瘡ハ陽毒乃病をれハ陽は光をみるくく西  
 よわくくくその上ハ陽明ハ胃と云腸と云属一く  
 血ともよるくくくハ鼻と云兩傍人中乃上下  
 耳年壽 氣桂と云乃るよ先々現るものハ舌也天庭  
 堂壁星と云面乃志中眉乃上より髪乃生際中  
 るよ瘡乃白る事と云ハ西候也顔ハ諸陽乃聚會  
 る處友乃額ハ五藏精華乃處咽 喉ののんどの  
 るら水穀乃道路乃處喉 喉ののんどの



山陰道 鳥取縣 鳥取市 鳥取藩 藩邸 庭園 松林 橋

九



山陰道 鳥取縣 鳥取市 鳥取藩 藩邸 庭園 松林 橋

肺呼吸の性来るれ處胸腋ハ清陽氣と受れ  
處られを五兩ノ要害とりのけしは兩ノ瘡乃出る事  
さハ惡瘡也けしは出る事稀なるハ毒也惟四肢  
血しをりのを蛇さきなりと保嬰海保赤金去毒の  
出よるなり

十 瘡瘡乃形色此言惡乃後

○瘡瘡乃形色四時よまらざりて言惡とわらひは  
既これとりの四時よわらひは瘡乃を紅ゆて白と  
る色と面部よありり者ハ毒也又紅ゆて白と常  
眼中熱神ありて瘡必兩ノ臉上よこらりて  
大小いりて瘡乃色若澤ゆて根紅活なる

ものハ茶と膿せびとりをどづり多るよと也保  
嬰備保赤金去毒の出よるなり

○瘡乃形ハ尖圓ゆて大ききハ起膿の時よいりて  
至とらるやうゆてまめてその上とらるるよ  
うて膿とつらゆておちるを最上者乃瘡といふ  
膿ハゆて色赤なるを瘡皮を多く硬くは平  
くは又瘡の形ハよて中よ針まてつらゆて  
穴わらて黒色とありしとありしと悪し瘡と  
べきと瘡乃形ハ起膿ゆてむくつらゆて  
光澤ゆてその瘡根紅活なりて必九るありて  
やどめて瘡証ゆて悪くなりや保嬰海





あく其病を治すに可く上り治す所は治すに瘡治す  
ひきこり一脈よぬるを

○初やく熱らる可きと熱く熱壯らる者頭痛咳嗽鼻  
涕と流し感冒傷寒の類は似て類りし証は  
多種飲加減升麻葛根湯敗毒散の類と入合用  
べきなりいふるは方と可く汗と多きなり瘡瘡を  
一二方ならざることをわたりそい瘡瘡をわ  
く風邪の外邪をわく汗出く種を散しそ病を  
のづきをわたり

○加減參蘇飲の方  
人参 茯苓 甘草 蘇合香 羌活 独活 防风 白芷 川芎 陈皮 半夏  
紫茯苓 川芎 桔梗 前胡 陳皮 半夏

葛根 各末 白茯苓 山查肉 牛房子 各半 甘草

右一劑として生薑と加へく水煎し之を飲す

○加味升麻葛根湯の方  
升麻 葛根 柴胡 羌活 独活 防风 白芷 川芎 山查肉 各末

桔梗 防凡 紫茯苓 川芎 山查肉 各末  
牛房子 甘草 右生薑と加へく水煎し之を飲す

○加減敗毒散の方  
柴胡 海狗柴胡 人参 前胡  
根壳 羌活 獨活 防凡 荆芥 川芎 白  
茯苓 山查肉 各末 桔梗 甘草

右一劑として生薑と加へく水煎し之を飲す  
三方ハ久吾鼻乃加減れ妙方なり  
○初やく熱らる時腹痛者あるは飲合乃得す

るり浅氏向本致 卷の二に考附子砂仁陳皮と加  
く用へし一そのろく一神乃ぶく一吐逆する者もよ  
一連翹と加へし

○初りて熱出る時腰痛をりよ甚く杖をうらぐと  
毒致よ連翹 茵陈 细辛と加く用へし一  
神のぶく

○初熱乃時腰痛をりよ甚く杖をうらぐと  
と者ハ惡証なりもくハ死するなり

○初りて熱出る時顔面をくろくして焼くぶくもこ  
燕脂をほし一ろぶくりる者ハ惡証なりもくハすくハ  
さるなり

○初りて熱出る時紙燭をてててるよ皮骨をうら  
よ而く紅乃色りぬすりて熱が者ハ必惡症よ

○初りて熱出る時その熱をくくを焼くぶくと眼  
紅すくは唇紫色黒色をあらり一皮膚をけ破

くくぶるとき者ハ惡証なりもくハ死するなり

○初りて熱出る時鼻口耳より血と出へし小便は  
鮮なり血と下れる者ハ惡症也もくハすくなり

○初りて熱出る時胸をく突出る者ハ瘰癧乃毒深し  
して惡証とわすくもくハすくなり

○初りて熱出る時そのまゝ眼閉塞する者ハ惡症なり  
和信眼と別者と察せんとしるなり

くすくす

○初りて熱出る時舌乃頸紫色黒色とありり或は  
臭く口中より臭くあり

○初りて熱出る時聲出る事なく物聲乃ぶとくあり  
者ハ患一

○初りて熱出る時蛔虫と蚯蚓のぶとくけりく白き色  
と吐き人便よ下とものわりと患症ありと云ふべし

○熱余らるとそのまゝ痘出或ハあり百乃る子痘わ  
りくものいりやび患症よ憂ぶるものなりゆい法  
保嬰簿保赤全去痘疹全去等乃云ふべし

○初りて熱出る時その熱甚しく二三日と経くも痘出

事なくとたりし腰痛煩悶しと痰喘短気ちる者ハ

られ痘毒深きより出ぬるる清解散を利べし

防凡 荆芥 蝉脱 桔梗 川芎 前胡

葛根 升麻 酒炒黄連 酒炒黄芩 紫草

木通 牛房子 連翹 山查子肉 各ホ 其外

右劑とく生薑一厚と切く煎く用べしその毒

と余りく痘瘡出く甚悩どもその強神のぶと

○發熱之日痘出んとく物りやとく驚馬搗とをし

相ねしと躁しきその脈浮大ありと虚あり者これ

予血虚弱よりと痘毒とゆへ余り送りりあり

るり温中益氣湯と用くよし 人参 白朮 黄芩



○痘初く出の時唇の冷る瘰のびくく二日同より  
 ちち粟粒乃おとく三日同より赤や黄れおとく  
 くよ大にかりりく豆れおとくよりりくその色すこ  
 わるくくむらぶとく紅乃縁を根とよし一ころやう  
 みして大小便おとく飲食者れおとくりりさ順  
 痛といく茶と服さ所よ及びぬるかりりくは後  
 深嬰油保赤全去等子んてり

○放標の患伝といひ茶熱わくくまの一日乃同く  
 痘出り生一乃患伝るくくは後出られは次べ一茶  
 熱わくくそのすく痘出る者ハ九死一せよと云るべ一  
 痘出く熱一ぬんは一出又痘出る事一ぬんは者

と患一

○痘始く出る事蚕癩乃おとくかりりとのハ患一

○痘出くそのとちけ肉乃色と同き者ハ患一

○痘出く全く起脹せは焼湯疹乃くものおとく  
るハ患一

○痘出る時とりのハかられわくくおのど又わくく  
者ハ患一

○痘出くそればく破きややくけある者ハ患一

○痘出くほと腰痛事多くは臭く臭わくく  
りり者ハ患一

○痘出るらいつく後ハ熱いそ退申く  
言とる一



乃後ろろの瘡がりあつく悪征も変ぢりまのちるまの  
病ハ之料乃人參と用ぢれば貫脈よりみやくし  
敷く悪病とちりく死するなりあつて免補劑  
と用へきちり

○瘡瘡乃出亦因と鼻とれ入中 鼻の下の山根  
或ハ額額骨鼻に取眼乃上頸咽吭胸後なるるあ  
深山よ出ると嬌ふりちるまをいへるまを妨る  
さちりあつて瘡乃留はよくし其くちるまを  
瘡と因とるるとちりく地界さちりくし  
ろろ山なりとりを害するらる瘡瘡乃あふ  
くれはずかちりくも害とるありさハくし

出乃瘡瘡よれちりく希なりあつて敷標の付  
り地腫れく眼腫れくはるあ  
瘡瘡ハ眼あさるはいさるなりあつて瘡瘡  
ハ茶と振らるる及ぬ事ちりくし乃親ハちりく  
幼科集彙書の云よのちり

○瘡瘡出るるひらけ調元化毒湯と用く合  
明志返飛花子強ありなり 生黄芪 人參 白芍  
茶 當歸 牛房子 連翹 酒黄苓 酒黄連  
防凡 荊芥 桔梗 木通 紫葳 生地黃 山  
蒼子 各等 紅花 蜈退 耳中 杏仁 杏仁  
しんまを加へくちりく強く振らるし知神のおし



咳嗽を治すは風と熱を自汗一身戦慄  
 瘰癧の色惨白色あしく白け あり者八中和湯と角一  
 一 人參 黃芪 厚朴 白芷 川芎 當歸  
 桔梗 防風 杏仁 肉桂 藿香 甘草  
 君刺くさく 生薑せいじやう 大枣たいそう と加へて煎じて  
 と加へてめがせ

○瘰癧の時邪穢けがれ けがれの多し者ふ 少れく其瘰癧出  
 り又いせく故に膿より多し者ふ 平和湯と角一  
 人參 當歸 桔梗 白朮 紫蘇 黃芪  
 防風 白芍 其中 肉桂 沉香 檀香 乳香  
 藿香 右劑として生薑と加へて水煎じて用ひし

外みの蒼朮そうじゆつ 水浸すゐじやん 沉香せいじやう 檀香たんじやう 乳香にゅうじやう の煎と燒くその邪  
 氣と去べし

⑤瘰癧貫膿の時前苦寒の夜

○瘰癧出く初てより七日よりありてと貫膿の時と  
 らし其形は油あぶら してえ灰ありて流水れいすゐ につく  
 けく蒼朮そうじゆつ の色とあり玉蜀黍ぎんぎん の形かたち におくは  
 摩こ せバその皮かわ 堅く飲食おんじき つねのおとく大おほ 便べん 者もの は  
 多くあり者と順症じゆんじやう と茶ちや と煎せん じより及およ ぶはあり  
 ○貫膿の時れ悪症あくじやう とらぬ瘰癧出く七日よりありて膿  
 とおろすくは瘰癧れいぎん の頂隔ていかく と貫膿くわんぬ せむあり  
 ○貫膿の時瘰癧の色あけ灰色こがいしき けく中隔ちゆうかく と瘰癧



悪病也貫膿乃時々瘡瘡志行り子脹起よりく  
さうハ痛出るものちまはききびく痛く  
うらげどけりハ悪病とさるべし

○貫膿乃時瘡乃色は紫黒は靨一棟乃ぶとくり  
る証なりと名は前條 平目人乃れ血と切り時  
ても赤ぬめても一膿として赤れ紫とせむるぶとく

よしと用ぬ其色而何しめかりものちと 啓意  
なりは極くさるべしとゆふなりけ方紫黒は野  
乃偽なり

○貫膿乃時志行りよその瘡痒きそのハ悪証なりと虚  
証とさるべし 却て貫膿乃時其ハ虚實とさるべし

るハ汁をほくおとくけく痒きものちれば小  
兒必あやしく掻破るよつるなりを服乃時より  
よよ中とけく血乃瘡はあつぬやうよよぢ  
瘡と摩搔よハ兒乃中と用づらる 本邦乃偽  
るハ畜へとくものなり

○貫膿乃時よりんとけく眼乃うち鼻乃うちらと  
と念とくくくくべしけあよやくも来つ時眼つぶま  
鼻あさぐりくまきほぬけ輪者ある中 瘡  
つるつるなり

○貫膿乃時瘡乃色紅紫めして乾さ枯く焦黒は  
妻ぢる者ハ毒さうめして血凝なり必膿とけさびて

悪症とちりや多し清毒活血湯と角一

紫草 葦蕀 前胡 牛房 木通 生地黃

生白芍 連翹 枳椇 酒黃芩 酒黃連 山查

人參 生黃芪 各等 耳中 右劑と

生薑一片加て水煎一服とるのち一神のぶと

○貫膿乃時夜の色淡白よして尖舌らるる膿と

さる者い虚証ありとる子參淨鹿茸湯と角一

鹿茸 黃芪 當歸 人參 各等 耳中 少許

右劑やして生薑一片龍眼肉三箇入る薬下膿と

その瘡紅活と膿と角一貫膿とらるる子參淨鹿茸湯と

角一八寒と戦 咬牙 齒ととあらし

一方子と角一肉桂附子と加へ一泄瀉 脚のりる

そのよま煮飯とこりこ白朮白芍薬砂仁白茯苓白

術豆木香丁子肉桂と加へく用べし

○貫膿乃時夜初より虚寒寒ととりばるる

内托散と角一 人參 當歸 黃芪 白芍

川芎 肉桂 山查子 木香 防風 白芷 厚朴

各等 煎草 少許 右劑やして生薑一片と角一

薬下一服とるべしそのち一神のぶと一一方子枳椇

紫草と加ふを

○貫膿乃時虚子層らる者八膿とちりよる

て移る乃悪病と變じらる者らるるを瘰癧と

小治...  
...  
...

こめ... 寒 我 咬 牙 する 者 八 あり 証  
る 子 保 之 湯 と 用 べ し 黄 芪 大 人 参 中

耳 艸 右 刺 之 生 多 棗 と 加 之 煎 服

肉 桂 と 加 之 人 参 黄 芪 の 力 と 取 け て 是

川 芎 白 朮 肉 桂 と 加 之 大 保 之 湯 と 名 づ け 方 々

煎 之 後 乃 煎 之 煎 之 者 子 用 之 之 方 也

外 の 方 々

○ 貫 膿 乃 内 庭 之 汗 出 之 半 也

煎 之 或 八 寒 我 咬 牙 する 者 子 歸 芪 湯 と 用 べ し

當 歸 黄 芪 各 等 煎 之 仁 也 右 刺 之 水 煎

一 服 之 方 也

○ 貫 膿 乃 内 庭 之 汗 出 之 者 八 瘰 癧 と 瘰 癧 飲 食

減 之 之 湯 身 子 令 之 者 八 補 中 益 氣 湯 之 方 也

人 参 黄 芪 白 朮 各 等 當 歸 陳 皮

各 中 升 麻 柴 胡 芍 藥 各 等 右 刺 之 生

姜 棗 と 入 之 煎 之 用 べ し 寒 我 咬 牙 する 者 八

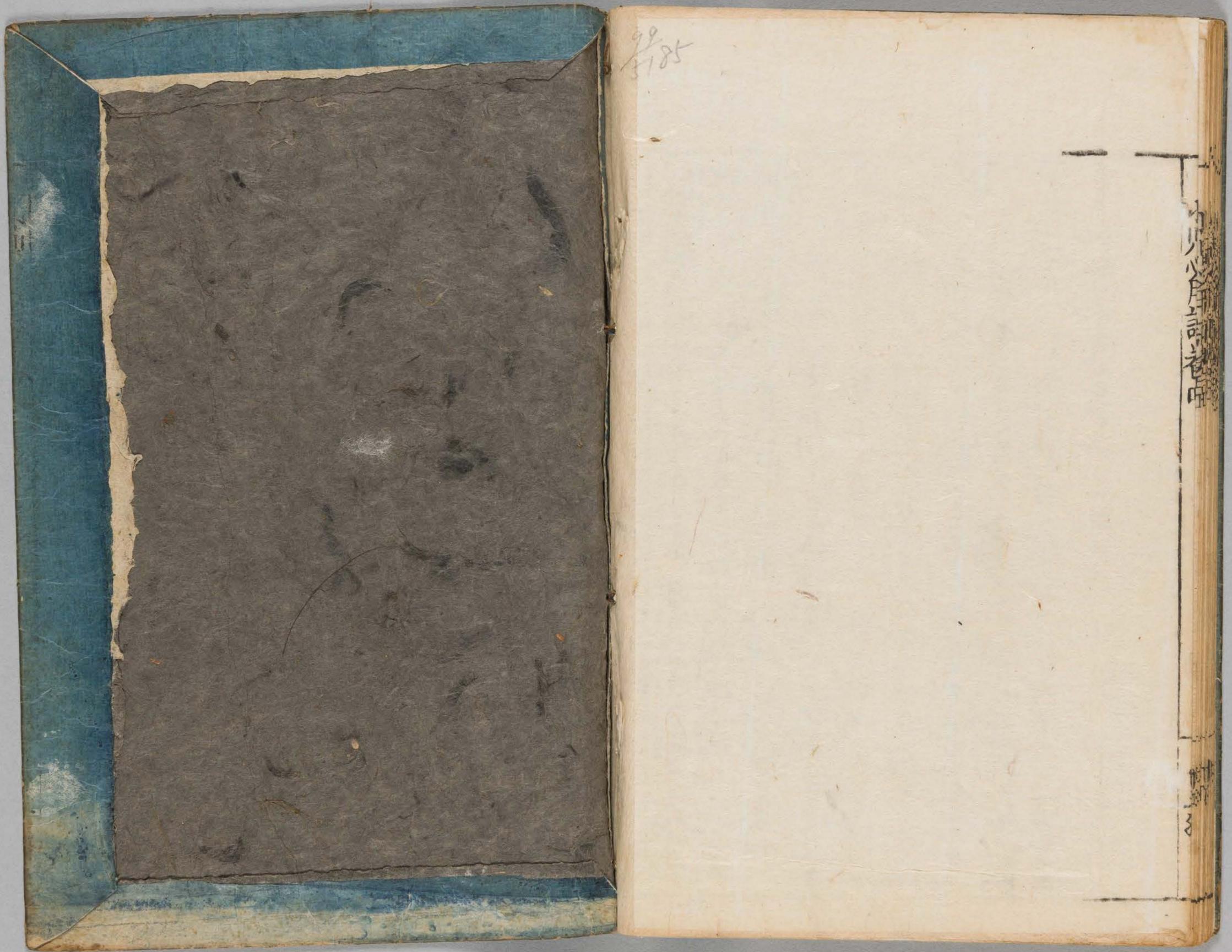
肉 桂 附 子 と 加 之 泄 瀉 之 白 朮 芍 藥 半 夏 貝 母 と 煎

連 肉 と 加 之 一 瘰 癧 之 白 朮 芍 藥 半 夏 貝 母 と 煎

一 小 便 通 せ ば 好 也 茯苓 車 前 子 澤 瀉 と 加 之

○ 甚 瘰 癧 之 方 防 風 荆 芥 連 翹 と 加 之 一 方 之 方

子 連 翹 山 查 子 と 加 之 方 也



99  
5185

内凡心解



